

## 小学校第5学年 道徳学習指導案

1 主題名 自己を省みる 1－(1) 思慮・反省

2 資料名 「拾われた手紙」(自作資料)

3 主題設定の理由

○ ねらいとする価値について

自分を客観的に見つめ、内省することは、自己の確立にとって不可欠な要素である。しかしながら、人は自己保身的な考えにとらわれ、自己の過ちや失敗を他人の責任にすることもある。高学年では、自己を認識する能力が向上してきて、その力が、徐々に生活の中に反映され、主体性のある自己が形成されていく。その過程において、自分を振り返り、よく考えて行動する態度をはぐくむことや、過ちを犯していたと気付けば素直に改める態度を身に付けさせることは、大変意義深いと言える。

○ 児童の実態について

本学級の児童は、5年生になり、いろいろな体験活動を通して、落ち着いて行動ができるようになってきた。それでも、ときとして、衝動的、興味本位に行動し、目先の楽しさや安易さに流される場面も少なくない。

事前アンケートによると、メモや手紙を書いて友達に渡した経験がある児童は学級の約半数おり、間接的なコミュニケーション方法の広がりを感じられる。児童がとらえているメモや手紙のよさは、相手から確実に返事がもらえることや、秘密のことを話せる、素直になれる等であった。

○ 資料について

本資料では、図書委員会の仕事を忘れた主人公さちえが、ひろ子の厳しい叱責に腹を立て、衝動的に書いた悪口の手紙をともきに拾われるという内容である。拾った手紙をじっと見つめた後、小さく折りたたんで、人目に触れないようにくずかごの奥に捨てたともきの行動は、さちえの内省を促す。

さちえの気持ちを通して、その場の感情に左右されず、よく考えて行動しようとする心情を育てることができる資料である。

○ 情報モラル教育の視点

情報モラルに関する実態調査によると、友達に何かを伝えたいことがあるときにメモ程度の手紙を使うという児童が45%いた。女子児童に限ると、80%を超えている。児童のメモ程度の手紙のやり取りは、将来的に匿名性の高いインターネット掲示板やブログ、携帯メールなどのやり取りにつながっていくことが想定される。

そこで、この時間では、メモ程度の手紙について考えていくことで、匿名性の高い状況になった場合の道徳的判断力をはぐくみたい。

○ 指導の手立て

指導にあたっては、導入でメモや手紙に関するアンケートの結果を提示し、価値への方向付けをしたい。展開では、まず、さちえのひろ子に注意されたときの気持ちやともきにメモを拾われたときの気持ちに共感させたい。中心発問では、衝動的に行動してしまったさちえと、深く熟慮し行動したともきを対比し考えさせることで、さちえの過ちを素直に改めようとする気持ちを話し合わせたい。そうすることで、よく考えて行動しようとする心情につなげていきたい。終末の教師の説話では、情報ツールについて、プラス面も押さえながら話をしたい。

4 本時のねらい

主人公さちえの気持ちを通して、その場の感情に左右されず、よく考えて行動しようとする心情を育てる。

5 本時の展開

◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
導 入	1 手紙をやり取りした経験を想起する。	○ 友達に手紙を書いた経験がありますか。	・ 手紙に関するアンケートの結果を提示し、価値への方向付けをする。
／	2 資料「拾われた手紙」について話し合う。	○ 主人公さちえさんの気持ちを考えながら聞きましょう。	・ 資料は、分断提示で読み聞かせる。(再現構成法的に)
展 開	(1) ひろ子に怒られているときのさちえの気持ちを考える。	○ 仕事を忘れ、ひろ子さんに注意をされているとき、さちえさんは、どんな気持ちだったでしょう。 ・ 仕事を忘れて悪かった。 ・ 今度から忘れないようにしましょう。 ・ そんなにおこらなくても。	・ 図書委員会の仕事を忘れたのはいけなかったというさちえの気持ちをとらえさせるとともに、きつい注意をされて腹が立っているさちえの気持ちにも共感させる。
	(2) 手紙をともきに拾われたときのさちえの気持ちを考える。	☆ ともき君に手紙を拾われたさちえさんは、どんなことを考えたでしょう。 ・ みんなに見せられる。 ・ 誰が書いたか分からない。 ・ ひろ子さんが悪いんだ。 ・ 先生に言い付けられる。 ・ 書かなければ良かった。	・ みんなに見せられると困るさちえの気持ちや、匿名だからそれでもいいと思う複雑な気持ちをとらえさせる。 ・ ひろ子が悪いんだと自己を正当化するさちえの気持ちもとらえさせたい。
	(3) ともきが手紙をくずかごに捨てるのを見たときのさちえの気持ちを考える。	◎ ともき君が手紙を捨てるのを見て、さちえさんは、どんな気持ちになったでしょう。 ・ あんな手紙を書いて悪かった。 ・ あんな手紙は書かないようにしましょう。	・ よく考えないで悪口の手紙を書いたことを内省しているさちえの気持ちをとらえさせる。 ・ ともきがひろ子の気持ちをよく考えていることもとらえさせる。
／	3 自己の生活を振り返る。	○ これまでによく考えないで行動をした経験はありませんか。	・ よく考えないで行動をしたとき、後でどんな気持ちになったのか考えさせる。
終 末	4 教師の説話を聞く。	○ 先生もメールで苦い経験をしたことがあります。	・ 気分流されず、よく考えて相手に思いを伝えることの大切さを感じ取らせたい。